

# 学校だより 芝っ子

令和5年10月27日  
松本市立芝沢小学校



## 実りの多い2学期

## それぞれの学びから

一年生は、学校から学習範囲を広げ、新村地区の探検に出かけました。ものぐさ自然園で秋見つけをしたり、牛舎の牛を見たり、松本大学キャンパスを通ってみたり…。探検を終えた子どもたちは、「自然園で、どんぐりを見つけました。どんぐりの帽子が2つにつながっていて不思議でした。ピンクの小さい花が咲いていてかわいかったです。知らないものがいっぱいあって勉強になりました。」「歩いていたらカーネーションハウスをみんなで見つけました。朝陽がカーネーションにあたってきれいでした。」「田んぼで『つながりとんぼ』を見つけました。稲刈りをしたてのお米を早く食べたいです。」等と感想を記しました。自分の足で歩き、見て、わかって、感動した様子がわかります。こうやって地域のよさを知って、ふるさとを愛おしむ素地が養われるのだなあと思いました。



四年生は、奈良井ダム見学に行ってきました。子どもたちは、一学期から、自分たちの生活を支える「ゴミの処理・利用」「防災」の学習を積んできています。その一連の流れで、今回は「水」の学習です。事前の学習で「水はどこから来ているのか」予想し、調べていたので、見学を通して、実際に自分の目や耳で、確かめることができ、学びを深めることができました。自分たちの生活を豊かにするとともに、洪水などの災害から守るためのダムの役割がわかり、水の大切さを実感した様子でした。

五年生は、自分たちが育ててきたお米の収穫・脱穀を行いました。「くれきの生産組合」の皆さんにお世話になり、春から、田植え・草取・稲刈り、と一連の米づくり体験をしてきました。待ちに待った収穫の日は、昔ながらの千歯こきや足踏み脱穀機を使って「脱穀」を体験しました。作業を通して、「今は、機械化されて楽になっているけれど、昔の人はすごいなあ。」「この道具を考えた昔の人は知恵がいっぱいあったんだなあ。」と感じた子どもたちです。さて、収穫されたお米はどうするのでしょうか。五年生の探究はまだ続きます。



なかよし・あおぞら学級の子どもたちは、ふれあい教育展に参加しました。市内学校の支援級の友だちが一堂に会し、交流します。販売活動では、この日のために、時間をかけて丁寧に手作りしてきた製品を売ることができました。フェルトバックや新聞紙のブローチ、再生紙はがき、シュシュ、アイロンビーズ、スライム、プラバン、紙コップけん玉、段ボール人形、等など。製品をつくる過程では、技能の習得や向上、友だちとの協力、計画を立てる、段取りを覚える、相手を思いやる心…いろいろな力が養われます。そして、販売を通して、お客さんとのやり取りの中で成就感や自己有用感を得ることができました。

